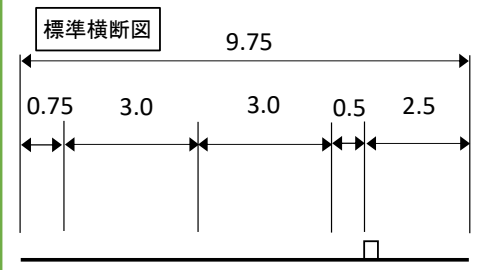
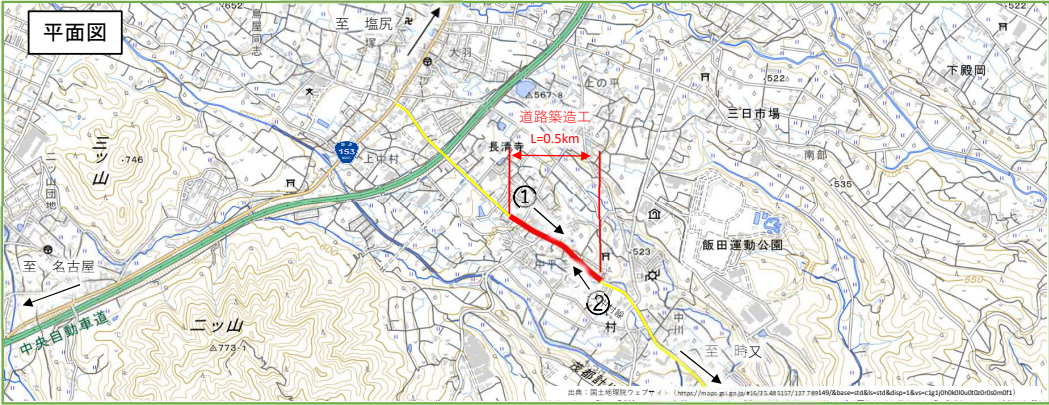
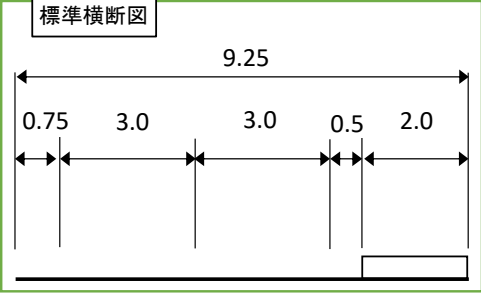


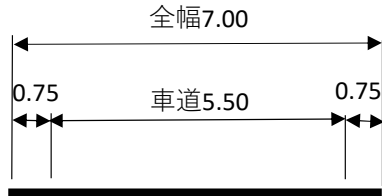
事業名		道路改築(小規模)		路河川名等		(一)時又中村線				
事業毎の通番		1	市町村名	飯田市	箇所名(ふりがな)		上川路(かみかわじ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 県民生活の安全確保			SDGsの関連目標		  			
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト		—			
	現状と課題	当路線は飯田市川路地区から伊賀良地区を結ぶ道路として、沿線住民にとって重要な生活道路である。しかしながら、当該箇所の起点側及び終点側は整備済であるものの、当該箇所は道路幅員が狭く中抜け区間となっている。一部通学路としても利用されているが、歩道が無く歩行者の安全な通行に支障をきたしている。								
	事業目的	道路拡幅事業の実施により円滑な交通確保ならびに歩行者の安全確保をはかる。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路築造工 延長0.18km 幅員6.0(9.25)m				300,000	—	—	270,000	30,000
										
事業概要										
	①		②							
	至 時又		至 中村							
事業効果	主な受益対象	自動車:1,661台/日(計画交通量)								
	期待される効果	【直接効果】 歩道設置により通行者の安全を確保 【間接効果】 観光周遊性の向上、地域間交流の促進				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用		1.1		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路であり、観光拠点および交通拠点へのアクセスを担う道路でもあるため、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R7.6 下伊那土木振興会から通学路の安全確保のための整備推進の要望がある。								
	事業説明等の経緯	整備方針について沿線地区の合意形成が図られている。また、地権者からR6.8「事業化に係る同意書」が提出されており、用地の提供について了解が得られている。								
評価結果	所管課の意見	小学校の通学路に指定されており、歩道が未整備であり道路幅員も狭いため円滑な交通と安全性を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価 ※	優先度評価 ※	
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.3	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

事業名		道路改築(小規模)		路河川名等		(一)時又中村線				
事業毎の通番		2	市町村名	飯田市		箇所名(ふりがな)		中村保育園前(なかむらほいくえんまえ)		
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-6 ① 県民生活の安全確保			SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト					
	現状と課題	一般県道時又中村線は、飯田市川路地区から伊賀良地区を結ぶ道路として、沿線住民にとって重要な生活道路である。しかしながら、当該箇所の起点側及び終点側は整備済であるものの、当該箇所は道路幅員が狭く、歩道も狭い。平成24年度の緊急合同点検において要対策箇所(伊賀良小学校通学路)として位置付けられている。								
	事業目的	道路拡幅事業の実施により円滑な交通確保ならびに歩行者の安全確保を図る。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	10年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2035年度(令和17年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路築造工 L=0.5km W=6.0(9.25)m				560,000	—	—	504,000	56,000
	事業概要		   ① 至 R153  ② 至 R153  標準横断面図							
事業効果	主な受益対象	自動車:5,018台/日(計画交通量)								
	期待される効果	【直接効果】歩道設置により通行者の安全を確保 【間接効果】観光周遊性の向上、地域間交流の促進					費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用		1.1	
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	沿線住民にとって重要な生活道路であるとともに地域産業や地域間交流の要衝であり、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R7.6 飯田市および伊賀良まちづくり協議会から幅員狭小区間の解消に向けた要望がある。								
	事業説明等の経緯	R4.6 地元役員に対し整備方針を説明し、事業実施について合意形成済。								
評価結果	所管課の意見	地域の重要な生活道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価 ※	優先度評価 ※	
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	3.1	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見		—		評価の決定		事業着手	

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築(小規模)		路河川名等	(主)戸隠篠ノ井線					
事業毎の通番		3	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	瀬原田(せはらだ)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン			関連する事業プロジェクト	—				
	現状と課題	主要地方道戸隠篠ノ井線は、長野市戸隠と篠ノ井を結ぶ重要路線であり、災害時、国道19号の迂回路となる路線である。当該区間は幅員狭小かつ急カーブで見通しが悪く、円滑な交通の支障となっていることから、対策を実施し、安心・安全な通行を確保したい								
	事業目的	道路改築により急カーブ及び幅員狭小を解消し、道路利用者の安全性、利便性の向上を図りたい。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2033年度(令和15年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	道路改築工 延長0.20km 幅員5.5(7.0)m				300,000	—	—	270,000	30,000
	 瀬原田 平面図 									
	 狭隘部すれ違い  狭隘部すれ違い 標準横断面図 									
事業効果	主な受益対象	自動車: 3,160台/日(計画交通量)								
	期待される効果	【直接効果】 災害対応の迅速化を目指した道路機能等の強化 【間接効果】 観光の振興を担う道路ネットワークの構築				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.2			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	地域の重要な生活道路であり、また観光振興に寄与し、将来にわたり利用される。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R7.10「県道戸隠篠ノ井線・安庭篠ノ井線道路改良舗装期成同盟会」から改良要望が挙げられており、事業の理解は得られている。								
	事業説明等の経緯	H29から定期的に地元役員に対し整備方針を説明し、事業実施について合意形成済。								
評価結果	所管課の意見	災害時の迂回路として使用され、地域の重要な生活道路であり、道路改築により安全で円滑な走行空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	3.5		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)